

国際連合『人的資源の人口学的分析—報告 I.
経済活動率の男女年齢別パターン』および同
『人口の経済活動に関するセンサデータの
分析方法』

U. N., *Demographic Aspects of Manpower—Report I. Sex and Age Patterns of Participation in Economic Activities*, Population Studies, No. 33, 1962, 81pp.

U. N., *Methods of Analysing Census Data on Economic Activities of the Population*, Population Studies, No. 43, 1968, 143pp.

労働力不足が激化するにつれて、労働市場に関する分析の重要性はますます高まっており、いくつかのすぐれた研究が発表されている。しかし、それらの分析の多くは、労働経済学の立場からするものであって、人口学的分析は、わが国の場合、まだ手うすである。労働経済学的分析が重要であることはいうまでもないが、労働力の動向が、基本的に、人口動向によって支配されることからみて、人口学的アプローチもまた不可欠である。アメリカなどでは、たとえば、John D. Durand, *The Labor Force in the United States 1890-1960*, 1948 (Demographic Monographs Volume 2, Gordon and Breach Science Publishers, New York, 1968) のような純粋に人口学的な労働力分析が盛んに行なわれている。

わが国では、人口学自体があまり普及していないから、少数の研究者以外は、人口学的分析方法に不案内である。その意味で、ここに紹介する国連刊行の2著は、大いに役立つのではなからうか。

前者 (*Demographic Aspects of Manpower*) は、経済活動率に焦点を合わせたものであるが、その構成は、I. 経済活動人口のセンサデータの国際的比較性、II. 粗経済活動率、III. 男子人口の年齢別活動率、IV. 男子労働力生命表、V. 女子人口の年齢別活動率、VI. 女子人口の経済活動に影響する要因としての配偶関係および出生率、VII. 結論となっている。本書の特徴は、概念的説明よりはむしろ、豊富な国際的資料の提供にあり、とくに女子人口の経済活動に関する資料が貴重である。わが国で女子の経済活動への参加が、労働力不足の影響で今後どのように展開するかが問題になっている折柄、この資料は大いに利用価値があるであろう。

後者 (*Methods of Analysing Census Data on Economic Activities of the Population*) は、分析方法の理解と習得に役立つと思われるもので、その構成は、諸論(本書の目的、経済活動の概念と定義、資料の評価)につづいて、I. 労働力の人口学的次元の計測、II. 労働力の規模、構成および増加に影響する諸要因の研究、III. 経済活動のタイプの研究となっている。本書は国連の出版物ではあるが、執筆にあたったのは、ペンシルバニア大学人口研究センターの John D. Durand と Ann R. Miller (いずれも人口研究の専門家) であり、この分野における新旧の主要な文献を豊富に引用し、また最新の分析方法の紹介につとめていて、労働力人口の人口学的分析へのすぐれた入門書となっている。

もともと、労働市場の分析は、労働力の需要と供給に関する分析であり、その性格上、多分に経済学的な色彩をおびることはさげられないが、とくに労働力の供給サイドの分析においては、人口要因の分析が基本的に重要であることを忘れてはならない。国連は、これまでも、人口学的分析方法に関するすぐれた入門書をいくつか公刊しているので、とくにこの方面で手うすなわが国の出版事情からみて、これらに注目することが必要であろう。今回、労働力人口の分析に関係して、重要と思われる国連の出版物が目についたので、あえて紹介の筆をとったしだいである。

(岡崎 陽一)